

平成 24 年 度
事 業 報 告 書

自 平成 24 年 4 月 1日

至 平成 25 年 3 月 31日

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

目次

■ 事業の概要	1
■ 具体的な取り組み	
【公益目的事業会計】	
1 アジアの研究開発拠点の形成	
(1) 大学間連携促進事業	5
(2) 留学生支援事業	5
(3) 研究基盤整備推進事業	6
(4) 学研都市人材育成事業	7
2 技術開発支援による新産業の創出・育成	
(1) 先導的低炭素技術研究拠点形成事業	11
(2) 産学連携推進事業	13
(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業	18
(4) 地域イノベーション戦略支援プログラム	19
(5) 北九州技術移転機関（北九州TLO）運営事業	20
(6) 半導体技術推進事業	20
(7) カーエレクトロニクス拠点推進事業	22
(8) ロボット開発支援推進事業	24
3 地域企業への経営・技術支援と創業の促進	
(1) 中小企業経営支援事業	27
(2) 北九州知的所有権センター運営事業	29
(3) ベンチャー育成補助事業	29
4 質の高い財団運営	
(1) 公益財団法人としての適正な業務執行	32
(2) 効率的な財団運営	32
(3) 学研都市の知名度の向上	32
(4) 学術研究施設等管理運営事業	34
【収益事業等会計】	
(1) 学研都市施設活用事業	36
【法人会計】	
(1) 財団の管理運営等	36

■ 事業の概要

当財団は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動している。

現在、学研都市では、国・公・私立の大学1学部4大学院、企業46社及び研究機関16機関等が集積し、学生2,156名（うち留学生463名）、教員154名、その他企業関係者などを合わせて3,030名が、教育や研究開発等に取り組んでいる。（平成25年5月1日現在）

平成24年度の当財団の主な事業内容は、次のとおりである。

アジアの研究開発拠点の形成

- 優秀な留学生の集積やグローバル人材の育成をより一層図るため、「留学生支援オフィス」を設置し、FAISの留学生関連事業（就職支援プログラム、語学教育センター、奨学金給付等）を同オフィスに集約・一元化した。
- 学研都市の大学を卒業した留学生と在校生、大学教職員、留学生支援事業関係者の旧交を温めるとともに、留学生のネットワークを作ることを目的として「北九州学術研究都市留学生同窓会」を初めて開催した。
- イタリア・フィレンツェ大学国際プラントニューロバイオロジー研究所と研究協力及び人材交流等の促進等に関する覚書を締結するとともに、学研都市内に同研究所の「北九州研究室」を誘致した。
- 学研都市3大学による「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」においては、通常の課程に加え、研究インターンシップ（2名）や企業と学生の意見交換会であるオフサイトミーティング（13社174名）等独自の支援プログラムを実施するなど、高度専門人材の育成に取り組み、平成24年度末までに105名の修了生を輩出した。修了生の多くが、大手自動車メーカーや電装メーカー等に就職し、高度専門人材として活躍している。

- 「ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業」を平成24年度から開始し、学生主体のものづくりプロジェクト（ひびきのハイテクチャレンジ）の公募助成（採択5件、学生50名参加）を行うとともに、大学や企業等と連携した実践的な講習会の開催やものづくり活動のフィールド提供などを行った。
- 半導体技術者が必要とする関連技術の習得を目的とした講座（ひびきの半導体アカデミー）を24講座開催し、418名が受講した。

技術開発支援による新産業の創出・育成

- 低炭素化技術開発の研究拠点化に向けて、「先導的低炭素化技術研究戦略指針」に基づき、企業が行う研究開発・実証研究等に対する支援を行った（助成件数15件）。
- 「第12回産学連携フェア」（10月17日～19日：来場者数約8,100名）をはじめ、「産学交流サロン（ひびきのサロン）」を9回（約1,200名参加）開催し、学研都市における「産」と「学」との出会いの場を創出した。
- 大学・研究機関や市内中小企業等が行う産学連携研究開発に対して、46件（上記の低炭素化技術拠点形成事業補助金の15件を含む）の助成金を交付し、新技術・新製品の開発を支援した。
- 地域内外の企業や大学との活発な共同研究を促進するため、「北九州医歯工連携研究会」など合計31研究会を運営するとともに、国等の研究開発資金を活用した産学共同研究プロジェクト11事業を実施した。
- 平成23年8月に地域イノベーション戦略推進地域（国際競争力強化地域）の指定を受けた福岡・北九州地域では、平成24年6月に事業プログラムが正式採択され、これまで知的クラスター創成事業等で創出した研究成果の事業化や、「高度情報化社会」「低炭素社会」「健康・長寿社会」等の次世代の社会システムに必要な技術・製品の創出に取り組んだ。
- 北九州TLOを中心に、大学等から創出された研究成果の特許化と企業への移転を積極的に進めた結果、平成24年度末の特許出願件数は累計で429件、企業へ技術

移転した件数は累計で201件に達した。

- 「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」では19の研究会を運営し、さらなる研究開発を支援するとともに、東京ビックサイトで開催されたライティング・フェア2013への単独出展ほか計8件の展示会等に出展するなど、協議会の活動状況や研究成果を市内外に幅広く情報発信を行った。
- カーエレクトロニクス分野の研究開発では、車載半導体研究会など6つの研究会の運営と、自動車メーカーと地域大学等による3件の共同研究を支援した。
- 北九州ロボットフォーラムの運営やロボティクス分野における新たなプロジェクトの立ち上げや試作品作りへの助成（2件）等を行った。

地域企業への経営・技術支援と創業の促進

- 創業や経営革新に積極的に取り組む中小企業経営支援として、総合相談（1,166件）や専門家派遣39社（延べ155回）を実施した。
- 企業ニーズを積極的に掘り起こしていくため、企業に出向く巡回専門相談（329件）や、マネージャーのネットワークや経験を活用したビジネスマッチング支援（121件、うち13件（1,972万円）成約）に取り組んだ。このほか、自動車産業への参入促進に必要な生産技術・品質管理の向上、コスト削減等に向けた支援を行った（助成件数6件）。
- ベンチャー企業等の成長を支援するネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ（KVIC）」において、経営課題解決支援や販路開拓・資金調達等のためのマッチング機会の提供等を行った（KVICフェアにおける商談213件）。
- IT関連のベンチャー企業の創出・育成を目的としたセミナーや交流会などを開催するとともに、市内5か所のインキュベーション施設に「インキュベーション・マネージャー（IM）」を配置し、起業家支援を行った。

質の高い財団運営

- 平成24年4月1日より公益財団法人へと移行し、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等の法令に基づき、公益財団法人としての業務執行を開始した。
- 効率的な財団運営を行うため、賃借料（コピー機リース料、会議室の借り上げ等）の見直しや旅費交通費・消耗品費の節減などにより、事務費を対前年度比6.0%削減した。また、事務事業の見直しにより職員定数を1名（88名⇒87名）、人件費を38,426千円削減した。
- F A I S職員の積極的な意見を財団運営に反映させるため、「F A I S職員提案制度」を創設した。平成24年度は、60件の提案があり、職員提案審議会において審議した結果、32件の提案に取り組むこととした。
- 市政記者クラブ向けに、プレスリリース（39件）を発信したほか学研都市見学ツアーを開催するなど積極的な情報発信を行った。また、北九州市立大学との共同記者会見を定例化して開催（3回）した。それらの取り組みの結果、テレビや新聞等で222件（前年度比37%増）報道された。
- 学研都市の認知度の向上と地域との交流を図るため、11月17、18日に「ひびきの祭」を「北九州市立大学ひびきの大学祭」と共同開催し（来場者数約11,000名）、併せて学研都市内の大学の協力によりオープンキャンパスを同日に実施した。
- 学研都市の研究者と市民との交流を目的としたサイエンスカフェを2回開催した（延べ58名参加）。
- 北九州学術研究都市の指定管理者として、学研都市内の共同利用施設の一体的・効率的な管理運営を行うとともに、学研都市施設の利便性向上に向けた取り組みを行った。また、AIMビル（小倉北区）内の北九州テレワークセンターの指定管理者として、情報通信設備を備えたインキュベーション施設の管理運営を行った。

■ 具体的な取り組み

【公益目的事業会計】

1 アジアの研究開発拠点の形成

(1) 大学間連携促進事業

○ キャンパス運営委員会の開催

学研都市の大学の代表者等によって構成されるキャンパス運営委員会を開催(2回：8月21日、3月12日)し、産学連携、大学間連携及び学術情報等に関する協議を行った。

○ ひびきの賞(修士論文)事業

学研都市の大学院に在籍する修士課程の学生を対象に論文を募り(各大学からの推薦数9編)、優秀者に対し、「ひびきの賞(修士論文)」の表彰を行った。

*最優秀賞 1編(九工大) 優秀賞5編(北九大3、九工大1、早稲田大1)

(2) 留学生支援事業

○ 留学生就職支援プログラム

学研都市の3大学(北九大、九工大、早稲田大)で日本企業に就職を希望する修士留学生を対象に、ビジネス日本語講座、日本ビジネス講座、就職セミナー等の就職支援プログラムを実施した。

*受講生 23名(北九大4名、九工大1名、早稲田大18名)

*日本ビジネス講座、就活セミナーはプログラム受講生以外の留学生も参加

*参考 平成23年度プログラム受講生12名の就職先(全員内定)

キヤノン(株)、(株)日立製作所、パナソニック(株)、富士通(株)、日本電気(株)、(株)村田製作所、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)日立ソリューションズ、デンソーテクノ(株)、(株)キューブシステム、(株)東洋電機工業所(北九州市)、大連日系企業

○ 語学教育センター運営事業

学研都市の留学生、進出企業・研究機関の研究者等を対象として、日本語講座、漢字講座、英会話講座を実施した。また、平成24年度から日本語上級(ビジネス日本語)クラスを新設した。

講座名	開講期間	授業回数	受講生数
日本語(初級～上級7コース)	4月～8月	32回	65名
	10月～2月	32回	108名
漢字(初級・中級2コース)	4月～7月	16回	11名
	10月～1月	16回	11名

英会話（初級・中級2コース）	4月～7月	16回	12名
	10月～2月	16回	10名
合 計			217名

○ 奨学金の給付

優秀な留学生の集積を図るため、奨学金（年間60万円/人、秋期入学は30万円）を給付した。

*給付額：16,200千円（給付人数：延べ43名）

○ 住宅費助成金交付事業

教育研究活動に専念するための生活支援として、各大学が提供する宿舍等に入居することができず、民間の賃貸住宅等に入居する留学生を対象として、家賃等の助成を行った。

*助成額：2,625千円（助成人数：104名）

○ 留学生交流事業補助

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人が運営する茶会、日本語交流サロン等の事業に対して助成を行った。

*助成額：750千円

○ 留学生同窓会

学研都市の大学を卒業した留学生と在校生、大学教職員、留学生支援事業関係者の旧交を温めるとともに、留学生のネットワークを作ることを目的として「北九州学術研究都市留学生同窓会」を初めて開催した。

*参加者：97名（内訳：卒業生14名、在校生35名、その他48名）

(3) 研究基盤整備推進事業

○ 海外大学等との連携プロジェクト促進事業

① 海外連携プロジェクト助成金

学研都市内に研究拠点を設けた海外大学に対し、拠点の設置・維持に係る経費の一部を助成するとともに、共同研究を行う大学に対して助成を行った。

- ・清華大学（中国）と早稲田大学とのマルチコアプロセッサとマルチメディア処理に関する共同研究
- ・上海交通大学（中国）と早稲田大学との環境情報処理技術に関する共同研究
- ・北京大学（中国）と早稲田大学との超高速人物検索技術およびセキュリティ応用に関する共同研究

また、イタリア・フィレンツェ大学国際プラントニューロバイオロジー研究所と研究協力及び人材交流等の促進等に関する覚書を締結するとともに、学研都市内に同研究所の「北九州研究室」を誘致した。

② アジアの大学との共同研究推進事業

アジアの大学の研究者と共同研究を行う学研都市内大学の研究者に対して、共同研究開発費の助成を行った。

＊共同研究助成14件

③ 海外サイエンスパーク等との交流調査事業

韓国・光州テクノパークから、8月に光州広域市にて開催された「韓国ロボット博覧会2012」へのブース出展依頼を受け、サッカーロボット「Hibikino-Musashi」などを出展したほか、10月の「産学連携フェア」に台湾の3科学工業園区（新竹・中部・南部）から講師を招いて「日台環境ビジネスセミナー～LEDの応用～」を開催したり、12月の新竹科学工業園区の32周年記念式典に出席したりするなど、海外サイエンスパークとの交流の推進を図った。

○ 学研都市充実強化事業

① 学研都市への交通アクセス改善

折尾駅からのバスアクセスの改善を図るため、朝夕1便ずつ臨時便の運行を行った（ノンストップで運行）。

② 学研都市の利便施設等の充実

市や関係機関と協議等を行い、学生食堂の改善等を図った。

(4) 学研都市人材育成事業

○ カーエレクトロニクス拠点推進事業(人材育成関連)

文部科学省「戦略的大学連携支援事業」（平成20～22年度）の支援により、学研都市3大学による「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」を平成21年4月に開設し、平成24年度も引き続き、学研都市3大学及び関係企業と連携しながら実践的な高度人材の育成を行った。

また、研究インターンシップ（実践的派遣教育）やオフサイトミーティング（企業と学生の意見交換会）など独自の支援プログラムを実施し、同コースにおいては、平成24年度に27名の修了生を輩出した。

<支援内容>

① 高専キャラバンの実施（カーエレクトロニクスコースのPR）

優秀な学生の確保につなげるため、模擬授業やコース修了生の感想などを紹介した。

＊平成24年5月17日（90分）北九州工業高等専門学校 専攻科29名

＊平成24年5月30日（90分）有明工業高等専門学校 専攻科15名

② 研究インターンシップ

より実践力を備えた産業人材を育成するため、学生を企業の研究開発部門などへ派遣する

インターンシップのコーディネートや、派遣に伴う旅費等についての助成金制度（実践的派遣教育事業助成金）により、インターンシップの実施を促進した。

* 助成金採択者数：2名

③ オフサイトミーティング

カーエレクトロニクス関連企業のエンジニア・人事担当者を招聘し、気軽な雰囲気でのディスカッションを行うことにより、職業観の醸成や今後の就職活動のきっかけ作りを目的としてオフサイトミーティングを実施した。

* 参加企業数：13社、参加学生数：延べ174名

④ 社会人の人材育成（北九州・次世代自動車勉強会）

会場企業への情報提供・啓発・参入支援としてセミナー・講座を開催した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
「車体構造編」 車体を分解してボディ機能部品、サスペンションの部品やインパネコンソール内のECU部品などを分解	9月14日	22名
「パワートレイン電気部品編」 パワートレインユニットのモータ、インバータ、コンバータなどのしくみと動作を解説	10月11日	28名

○ 連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース

「連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」の平成25年4月開講に向けて、企画・運営検討への参画や企業と大学の調整等、学研都市3大学及び北九州市と一体となって支援を行った。

○ 自動車に関する教育拠点の整備

技術開発交流センター内の自動車に関する教育拠点（実習室、講義室、EV部品展示室）の充実を図るため、「北九州・次世代自動車勉強会」において細かく分解したEV部品を整備、EV部品展示室のリニューアルを行った。

* 見学者数 90件、567人

○ ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業

① 平成24年度から新規に「ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業」の運営を行い、学生主体のものづくりプロジェクトを公募助成した（ひびきのハイテクチャレンジ）。

【採択プロジェクト】

プロジェクト名	参加者数
安定化装置付き小型全方向移動車いすの開発	10名
RoboCupサッカーロボット新型機の開発	8名
学生フォーミュラ車両開発を通じた実践的エンジニア力の育成	7名
セルフビルドによる環境配慮型茶室建設	12名
RoboCup@Homeに向けた自律ロボットの開発と競技会への参加	13名
合 計	50名

- ② 学生が主体的に取り組む開発プロジェクトを支援するため、大学や企業等と連携し、実践的な内容を中心とした講習会の実施やものづくり活動のフィールド提供などを行った。

【人材育成や研究開発に関する講習会・セミナー・情報発信の企画開催等】

内 容	開催日	参加者数
K I G Sマイスター講習会と(株)安川電機ロボット工場見学	8月27日	32名
マイコン・カー製作編（九州職業開発訓練大学校にて実施）	9月10日、11日	15名
産業用マイコン・プログラム編	9月12日、13日	14名
(株)安川電機 インバータ工場見学会	12月10日	17名
産業用サーボ基礎講習と実習会	3月8日	8名
合 計		86名

○ 半導体人材育成事業

優れた半導体技術者を育成する取り組みとして、半導体技術者が必要とする関連技術の習得を目的とした講座（ひびきの半導体アカデミー）を実施した。

学研都市の3大学によるアドバイザー会議を設置し、その意見、要望からの学生支援講座や、ひびきのLEDアプリケーション協議会等の研究開発グループや市内企業等の技術の底上げを目的とした出前講座を開催するなどの新たな取り組みを含めて24講座を実施し、418名が受講した。

テーマ・講座名	開催日	受講者数
製造管理のための必須講座<生産計画・品質管理・ISO>	6月11日	7名
中堅技術者・管理者のためのマネージングスキルアップ特別講座	6月20日	12名
特別講座（LED素子）	7月6日	21名
半導体・エレクトロニクスの故障解析	7月17日	20名

半導体・エレクトロニクスの信頼性	7月17日	20名
LED交流駆動技術	8月3日	12名
OPアンプ回路入門	8月10日	6名
技術者のためのビジネス創出セミナー	9月7日	107名
ふしぎ体験！LED工作教室	11月17日	86名
SW電源の基礎と応用講座<パワーLED駆動>	11月26日・27日	6名
製造管理のための必須講座<生産計画・品質管理・ISO> 《eラーニング》	12月10日～ 3月15日	10名
中堅技術者・管理者のためのマネージングスキルアップ特別講座 《eラーニング》	12月10日～ 3月15日	11名
状態遷移表設計手法（ZIPC）入門	12月14日	6名
画像処理セミナー	2月22日	18名
半導体・エレクトロニクス・ICT分野のベンチャー論	1月16日	6名
半導体・エレクトロニクス・ICT分野の世界最先端技術者との交流会	3月27日	9名
出前講座（㈱ロジック・リサーチ）4講座	1月18日・28日・2月 6日・3月13日	20名
IKKAN	10月3日	9名
福岡システムLSIカレッジ講座（北九州開催） 3講座	2月26日・27日・3月 4日・5日・6日・7日	32名

2 技術開発支援による新産業の創出・育成

(1) 先導的低炭素化技術研究拠点形成事業

○ 先導的低炭素化技術研究戦略会議の運営

地域の中核企業を中心とした産学官のメンバーによる「先導的低炭素化技術研究戦略会議」を開催し、戦略指針に基づく具体的な研究開発プロジェクトの進捗状況等の報告をするとともに、今後の研究開発の進め方等について意見を聴取した。

○ 研究会の運営

『CFRP（炭素繊維強化プラスチック）加工技術研究会』や『泥炭火災抑制技術研究会』など、低炭素化に寄与する技術への支援等の取り組みを実施した。

研究会名	参画機関
CFRP加工技術研究会	大学等3機関、企業9社、公的機関1機関
泥炭火災抑制技術研究会	大学等3機関、企業3社、公的機関6機関
Liイオン電池リユース研究会	企業6社、公的機関4機関
北九州地中熱・ヒートポンプシステム利用研究会	大学等2機関、企業5社、公的機関1機関
アジア水資源活用技術研究会	大学等2機関、企業3社、公的機関4機関

○ 低炭素化技術拠点形成事業補助金

北九州市が促進する低炭素社会の構築を図るため、事業化を目指した実証・研究開発プロジェクトに対し、調査・研究開発費等の支援（助成金事業）を行った。

・ビジネスモデル調査事業

本格的な研究開発に取り組む前段階の技術的内容・市場性・経済性に関する調査に対し調査費を助成。

＊200万円以内／年（単年度助成）

・重点研究プロジェクト推進事業

重点的に取り組むべき研究開発として、将来の実証化・事業化を目指すプロジェクトに対し研究開発費を助成。

＊1,000万円以内／年（最長2年度）

・ミニ実証事業

小規模実証により、実効性を検証するプロジェクトに対し実証研究費を助成。

＊1,000万円以内／年（最長2年度）

【ビジネスモデル調査事業】 2件

採択テーマ名	代表研究機関
低炭素化社会の早期実現に向けた水のクリーンエネルギー開発の可能性調査	(株)協和コンサルタンツ
低炭素型プラスチックリサイクル技術を中心とした市民参加型“見える循環システム”の構築と事業化	環境テクノス(株)

【低炭素半導体・エレクトロニクスビジネスモデル調査事業】 5件

採択テーマ名	代表研究機関
CMPパッド形状とフラーレン混合スラリーの最適化研究	三島光産(株)
SUN対応無線モジュールとECHONET Liteインタフェースを利用した、省電力化システムの研究開発	佐島電機(株)
多段LED照射装置の電力供給量をリアルタイムに監視・可変し、トータルの電力量を最適にコントロールする制御ボードの開発	新日本無線(株)
海難救助及び海中探索用高輝度小型LED水中照明の開発	(株)春日工作所
効率的な放熱設計と構造設計によるコンパクトな高輝度LED型水中サーチライトの商品化研究	(株)豊光社

【重点研究プロジェクト推進事業】 5件

採択テーマ名	代表研究機関
資源・エネルギーの高効率利用による低炭素社会の実現に資する低コストリチウムイオン二次電池用の長寿命・高容量マンガンスピネル正極材の開発【継続】	日揮触媒化成(株)
介護現場での排泄処理の肉体的・精神的負担を一掃し、低炭素に貢献する排水圧送技術の開発【継続】	TOTO(株)
レアアース磁石を使用しない電気自動車駆動用 IPM モータ（埋込磁石型モータ）の開発と実証	(株)安川電機
高機能養液制御による省水・省エネ型食糧生産技術に関する研究開発	(株) i T e s t
炭素を生体固定しCO ₂ 排出を抑制することを目的とした「昆虫生体機能」と「工業生産技術」を融合した小型プラントによる機能性タンパク質の効率的な製造システムの開発	(株)イーズ バイオ技術研究所

【ミニ実証事業】 3件

採択テーマ名	代表研究機関
流動分別式膜分離モジュールによる小規模分散型下水処理装置の開発【継続】	(株)セパシグマ

ヒ素や鉛といった重金属に汚染された水を飲用可能とする新たな水処理技術の活用により、とりわけアジア地域での安定的な水資源の確保を実現するセントラル浄水システムの実証試験	(株)タカギ
住宅建物への基礎杭を用いた地中熱ヒートポンプシステム導入の実証研究	新日本ホームズ(株)

(2) 産学連携推進事業

○ 産学連携基盤形成事業(研究者情報冊子の作成等)

学研都市の研究者情報等の研究シーズを内外に積極的に発信するとともに、最新の技術動向の収集や国その他関係機関とのネットワーク強化を通じて、産学連携の基盤づくりを進めた。

① 「北九州学術研究都市の研究者情報」冊子等の作成

学研都市のポテンシャルを広くPRするため、様々な媒体により、研究者の情報（5機関、180名）のPRを行った。

・「研究者情報」の改訂

冊子2,000部、 概要版（日本語）5,000部、（英語）1,000部

・研究者情報データベースの改修

レコメンド機能（同一研究分野の他研究者の表示）の付加、大学HPの研究者紹介ページとの相互リンク

② 産学連携を効果的に推進するための情報収集・発信

情報発信機能のPRとネットワーク拡大を目的に、メールマガジン「産学連携センターNews」を約9,000人に62回配信し、国等の公募事業や産学連携イベント情報、北九州TLOの保有シーズなどタイムリーな情報提供を行った。

○ 産学交流促進事業(産学交流サロン、第12回産学連携フェア等)

① 産学交流サロン

学研都市において産学連携の動きが次々と生まれる環境づくりを目的に、特定の技術テーマについて、産学官で自由にディスカッションする「産学交流サロン」（9回開催、延べ約1,200名参加）を開催した。

回	テーマ・講座名	開催日	参加者数
第111回	次世代バイオディーゼル燃料として期待されるHiBDの開発状況報告 —廃食用油をはじめ植物・動物油脂から高品質な灯軽油を製造—	7月27日	73名

第112回	今マイクロ波が熱い！第4弾 EMCからプロセス化学にわたるマイクロ波技術のひろがり	8月22日	63名
第113回	技術者の為のビジネス創出セミナー第2回 特集「中国・韓国などアジアエレクトロニクスビジネスの最前線を探る！」	9月7日	107名
第114回	北九州医歯工連携研究会	9月11日	135名
第115回	新技術説明会 環境未来都市関連技術 —地元企業に使ってもらいたい医療・福祉、環境関連技術—	10月19日	430名
第116回	生産効率をMAXへ！ ロボットテクノロジー利用拡大について考える	11月22日	99名
第117回	一体化を狙う「ひびきの」微細化技術 CMOS+MEMS	3月1日	72名
第118回	デジタル技術の活用によりモノづくり能力を高めていこう —製造・生産現場におけるデジタル技術の活用法—	3月5日	84名
第119回	ここまで来たLEDアプリケーション 新応用分野 第5弾 最前線研究開発と面白い応用分野紹介	3月22日	114名

② 産学連携フェア

地域の大学（研究機関）・企業等の研究シーズや先端科学技術の研究開発状況を広く情報発信するとともに、「産」と「学」の出会いの場を提供する「第12回産学連携フェア」を3日間開催し、延べ約8,100名が参加した。

フェアでは、基調講演（モノづくりへのこだわり—国内でのモノづくりと海外事業展開—）、セミナー（「自動車技術の進展と今後」など）や展示会を開催し、企業商談等50件（技術相談29件、商談16件、共同研究5件）の成果を上げた。

*日程 : 10月17日～19日

場所 : 学研都市

テーマ : 知と技術の融合

基調講演 : トヨタ車体株式会社取締役社長 網岡 卓二氏

セミナー : 23件開催

展示会 : 41機関が出展

③ 展示会出展

学研都市における産学連携活動を広くPRするため、「エコプロダクツ2012」等の産学関連イベントにPRブースの出展を行った（ブース訪問者数：約1,500名）。

展示会等	開催日
エコテクノ2012（西日本総合展示場）	10月11日～13日
エコプロダクツ2012（東京ビッグサイト）	12月11日～13日
ひびしんビジネスフェア2013（西日本総合展示場）	2月14日

○ 産学官連携研究開発推進事業助成金

① 産学連携研究開発事業（大学等研究機関向け助成金）

市内大学等研究機関における研究シーズを、事業化に向けて具体的な産学共同研究へと繋げ、競争力のある新技術・新製品の開発や地域産業の高度化を推進することを目的とした研究開発への一貫した支援（助成金）を行った。

・ シーズ探索助成金

具体的な産学共同研究への応用可能性のある研究課題解決に向け、その解決方法の可能性・適正等を調査・検討していく段階に対する助成。

* 100万円以内/年（単年度助成）

・ 産学事業化促進助成金

具体的な産学共同研究への応用可能性のある研究課題解決に向け、研究シーズの段階から、より具体的な産学共同研究へと高めていく段階に対する助成。

* 500万円以内/年（最長2年度）

【シーズ探索助成金】9件

採択テーマ名	代表研究機関
腸管蠕動運動を再現したインテリジェント大腸内視鏡トレーニングモデルの開発	産業医科大学
高性能放熱パネルによる超高輝度LED型投光器のコンパクト化検討	北九州市立大学
地域活性化に繋がる地域サービスを発信する地域情報基盤システムの研究開発	北九州工業高等専門学校
中小企業向けスパイラル導入可能な生産スケジュール・ソフトウェアパッケージの有効性の調査研究	早稲田大学
チタネートナノチューブを用いた有機環境汚染物質の吸着分離実験	北九州市立大学
LEAペプチド共発現によるタンパク質高発現法の昆虫細胞発現系への応用	九州工業大学

短納期化を目指した金型修正作業を短縮する金型知識ベースの構築	九州工業大学
北九州市内で排出される下水余剰汚泥の減量化および資源化に関するエコフィッティング技術開発	九州工業大学
自己集合特性ペプチドを利用した新規なDDS担体の開発に関する基礎研究	九州工業大学

【産学事業化促進助成金】 9件

採択テーマ名	代表研究機関
肺癌を標的とした多糖核酸複合体を用いた分子標的 siRNA薬の開発	北九州市立大学
高齢者用エコ自律走行・運転支援電気自動車の開発と農林業作業車両への応用	早稲田大学
耐緩み機能を強化して疲労強度を40%以上向上させた高機能締結体の実用化に関する研究	九州工業大学
パワーデバイス用高信頼化評価技術：リアルタイム故障モニタリングシステム	九州工業大学
半導体微細加工技術を利用した細胞解析デバイスの開発	九州工業大学
廃自動車シュレッダーダスト中のレアメタルを含む非鉄金属の高効率回収プロセスの開発に関する研究【継続】	北九州市立大学
省エネルギーSiCデバイス高温実装用導電接続技術研究【継続】	早稲田大学
音声認識技術による心電信号の補正【継続】	九州工業大学
2段すくい角を有する高効率・長寿命切削工具の開発【継続】	九州工業大学

② 中小企業産学官連携研究開発事業（中小企業向け助成金）

市内中小企業の技術や製品の高度化を推進するため、市内中小企業が大学等と行う優れた新技術・新製品の研究開発を支援した。

・一般枠

市内の中小企業が行う、補助終了後3年程度以内の実用化の見込みのある新技術や新製品開発に対する助成。

* 700万円以内/年（最長2年度）

・FS研究会枠

市内の中小企業者が、新技術・新製品開発を行う前段階としての技術的内容・市場性・経済性等に関する調査・実証に対する助成。

* 100万円以内/年（単年度助成）

助成枠	採択テーマ名	申請企業 (他の参画企業)	参画大学等
一般枠	民生用スマートデバイスを活用した簡易外観検査機能が搭載された万能型生産アシストシステムの開発	(株)シンクフリー	早稲田大学
	認知心理学と情報工学を融合したインタフェースデザインと個人適応技術を用いた歩行訓練支援システムの開発	リーフ(株)	九州工業大学
	水素系ガスを用いた低環境負荷溶射技術の開発	富士岐工産(株)	九州大学工学研究院 福岡県工業技術セン -機械電子研究所
	鮮魚の鮮度を長期保持する革新的並列型ナノバブル生成装置の開発	丸福水産(株)	九州工業大学
	柱灯方式を用いたLED航海灯の製品化研究開発	(株)マリンテック	北九州市立大学
	防臭機能性を付与した低環境負荷型石けん系洗浄剤の開発【継続】	シャボン玉石けん(株)	北九州市立大学
	浸炭深さの測定方法及び装置の開発【継続】	東亜非破壊検査(株)	大分大学
FS 研究会 枠	操作性を刷新する新型松葉杖の提案	(株)有菌製作所	九州工業大学 九州看護福祉大学
	福岡地域の潜在シーズを活用した高機能性牛乳アレルギー代替飲料の開発	小倉印(株)	北九州市立大学
	内圧充填接合補強工法を応用したコンクリート構造物の長寿命化	三政物産(株) (アイクリーテクノワールド(株)、BAS F ポリリス(株))	北九州市立大学 東海大学

○ 新産業創出支援事業

具体的なプロジェクトの創出や事業化への方向性を検討するため、生産性意識の見える化システム構築のための企画・調査・分析や公共インフラの計測・監視技術に関する調査を行った。

また、国プロ終了案件について、補完研究の実施にあたり必要となる調査・研究を実施した。

○ 医療・介護分野参入に向けた技術高度化促進事業

市内ものづくり企業の医療・介護分野への参入と技術の高度化を図るため「北九州医歯工

連携研究会」を設立し、産学連携の推進を目的としたセミナーを開催した。

また、市内の企業または大学等が行う医療・保健・介護分野の製品開発を支援した。

・医療・保健・介護分野製品開発事業

市内の企業または大学等が、医療・保健・介護現場で抱える課題を解決するために行う機器等の製品開発に対する助成。

* 250万円以内/年 (単年度助成)

採択テーマ名	申請機関
一過性意識消失発作の原因診断を可能とする非観血的心電図・血圧連続記録計開発	産業医科大学
100%フッ素樹脂製「カテーテル部品」の開発	(株)陽和
静脈血栓症予防下肢運動補助ロボットの開発と実地検証	九州工業大学

(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業

国等からの研究開発資金を活用した産学共同研究プロジェクトを運営実施した。

平成24年度は、前年度からの継続の7事業を含め、11事業に取り組み、(このうち7事業については、平成25年度以降も継続実施)、市内外の23企業と共同プロジェクトを進め、新技術・新製品の開発を行った。

プロジェクト名	事業期間	参画大学	公的研究機関	参画企業数
大径丸鋼材の摩擦圧接法によるロール軸接合技術に関する研究開発	22年度~24年度	九州工業大学	-	1
高機能竹繊維を使った低炭素型軽量化プラスチックコンポジットの開発	23年度~25年度	九州工業大学	-	2
織染加工技術を活用した孔拡散膜とナノ粒子凝集剤を用いた新水処理技術	23年度~24年度	-	-	3
地滑り・公共インフラ老朽化監視用低コスト・多機能・高精度計測システムの研究開発	24年度~26年度	早稲田大学	-	4
エネルギー社会に対応した高機能パワーデバイスの高信頼性を確保する超小型電流センサ及び製造ライン向け検査装置の開発	24年度~26年度	九州工業大学	1	3
全身疾患予防につなげる定量的歯周病総合診断実現のための多項目検査システムの開発	23年度~25年度	九州工業大学 九州歯科大学	-	3

広域対象のPVシステム汎用リサイクル処理手法に関する研究開発	22年度～26年度	北九州市立大学	1	3
生ごみ精製乳酸化実証事業	18年度～24年度	—	—	4
新バイオディーゼルの合成法の開発	22年度～26年度	北九州市立大学 日本工業大学 他	—	—
微細加工プラットフォーム事業	24年度～33年度	—	—	—
ロボット技術実用化事業	24年度	九州産業大学	—	2
合 計			2	25

(4) 地域イノベーション戦略支援プログラム

平成23年8月に地域イノベーション戦略推進地域（国際競争力強化地域）の指定を受けた福岡・北九州地域では、福岡県、福岡市、北九州市、地域の大学等研究機関、金融機関、（財）福岡県産業・科学技術振興財団、FAIS 等で構成する「福岡イノベーション推進協議会」により、事業プログラムを提案した。

その結果、平成24年6月に正式採択され、これまで知的クラスター創成事業等で創出した研究成果の事業化や、「高度情報化社会」「低炭素社会」「健康・長寿社会」等、次世代の社会システムに必要な技術・製品の創出に取り組んだ。

なお、平成18年度から23年度まで実施した地域イノベーション戦略支援プログラム（旧知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)）は、文部科学省の設置する評価委員会より高い評価（総合評価S）を受けた。

【研究テーマ】

No.	研究テーマ名	研究代表者
1	有事対応型情報プラットフォームの開発	九州大学 安浦寛人教授
2	複合型社会情報基盤システムの信頼性・安全性保証技術の研究開発	九州大学 福田晃教授
3	高性能無線バックホール	九州大学 古川浩教授
4	次世代窒化ガリウムパワー半導体による革新的ワイヤレス・エネルギー供給技術開発と照明への応用	九州工業大学 大村一郎教授
5	MEMS を利用した細胞解析デバイスの開発	九州工業大学 安田隆教授
6	超低電力アナログLSIの高信頼設計技術に関する研究	北九州市立大学 中武繁寿教授
7	新規高輝度LED利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発	北九州市立大学 河野智謙准教授

8	高機能・高信頼性モジュールのための高付加価値インターポーザに関する研究	福岡大学 友景肇教授
9	3次元LSIによる画像処理チップの研究	早稲田大学 後藤敏教授
10	次世代画像符号化（HEVC）の低消費電力化の研究	早稲田大学 後藤敏教授
11	CPS構築に向けたSSSoC利活用技術の開発	（公財）九州先端科学技術研究所 村上和彰副所長

※No.4、5、6、7、9、10は北九州市内研究者の研究テーマ

(5) 北九州技術移転機関(北九州TLO)運営事業

大学等で生み出された研究成果を特許化し、ライセンス契約等により企業へ技術移転を図った。

平成24年度実績（23年度実績）		平成24年度末現在	
特許出願件数	10件（16件）	累積特許出願件数	429件
技術移転成約件数	14件（14件）	累積技術移転成約件数	201件

*知的クラスター創成事業の成果でFAISが特許出願した件数を含む。

(6) 半導体技術推進事業

○ ベンチャー企業育成事業(半導体設計・評価環境提供)

ベンチャー企業のニーズなどを踏まえ、アナログ回路設計ツールや評価機器の整備を行い、充実した半導体設計環境・評価環境づくりを進めた。

【半導体設計環境及び、評価・解析環境の提供】

種別	ツール名・機器名
回路シュミレーター	HSPICE
レイアウト検証	Calibre
回路シュミレーター	Virtuoso Spectre Circuit Simulation
回路図エディター	Virtuoso Schematic Composer
レイアウトエディター	Virtuoso Layout Editor
その他	環境整備（UPS・機器・テスト等）

*延べ利用者数778人

○ 新アプリケーション創出事業

ひびきのLEDアプリケーション創出協議会は、LEDを用いた新アプリケーション産業の創出等を目的に平成23年2月発足。

平成25年3月、「第3回ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」・「第119回産学交流サロン」を同日開催し、協議会の成果事例等を発表した（参加者数：114名）。

また、全国規模の展示会への単独出展ほか計8件の展示会等に出展し、協議会の活動状況や

研究成果を市内外に幅広く情報発信した。

【研究会活動】

研究会名	参画機関
ひびきのLEDアプリケーション創出協議会	会員数125名、企業38社、公的支援機関22団体
高輝度LED照明研究会	大学等4機関、企業8社、公的機関1機関

【ひびきのLEDアプリケーション創出協議会 登録研究グループ】

No.	研究グループ名	参画機関
1	高効率LEDデジタル電源制御技術の研究	早稲田大学、(株)イーシーエス、新日本無線(株)、佐島電機(株)、九州工業大学
2	無線ネットワークを用いた室内照明の節電制御システムの開発	早稲田大学、博通テクノロジー(株)
3	LED植物工場(食料生産)研究会	北九州市立大学、(株)iTest、宮崎大学、農研機構九州沖縄農業研究センター、ボン大学(独)、フィレンツェ大学(伊)、パリ第7大学(仏)、新日鉄ソリューションズ(株)、(株)春日工作所
4	LED安全・防災応用研究会	北九州市立大学、国立環境研究所、北九州市消防局、(株)エコジェノミクス、(株)iTest、(株)インフォグラム、(株)キットヒット、佐島電機(株)、日本電気通信システム(株)
5	LED鮮度保持照明研究会	北九州市立大学、クランフィールド大学、東北大学、(株)iTest
6	LED街路灯照明の活用	北九州工業高等専門学校、(株)東芝、東芝ライテック(株)
7	LED駆動回路の研究	北九州工業高等専門学校、新日本無線(株)、(株)イーシーエス
8	LEDスペクトル照射による化学物質の分解システムの研究	熊本県立大学、(有)ニシカン、(有)球磨衛生設備管理会社、(有)松岡清掃公社、(有)三角環境、(株)セイブクリーン
9	高輝度LEDを駆使した魚類の電気生理学的応答の解明と工学的応用	北九州市立大学

10	LEDアプリ製品のための低コスト高放熱パッケージの研究	(株)STEQ、エムテックスマツムラ(株)
11	インテリジェントLED照明の研究	(株)STEQ、九州工業大学、(株)キットヒット
12	LEDによるCO2吸収システム	北九州市立大学、フィレンツェ大学(伊)、(株)パートナー
13	電源一体型小型・軽量LED水中灯研究会	福電資材(株)、鹿児島大学大学院
14	船舶法定船灯LED化への調査研究	(株)マリンテック、福岡県工業技術センター、(財)福岡県産業・科学技術振興財団、山口県産業技術センター、(株)豊光社、藤総合技術事務所、KEN工房
15	高輝度消防用LED照明開発	北九州市立大学、(株)豊光社、鹿児島大学大学院、(株)アイ・エス・デイ
16	農業システム実証研究会	北九州市立大学、(株)九州スーパーハウス、(株)イーシーエス
17	LED紫外線照射によるマゴット抗菌物質発現研究	(株)イーズ、九州工業大学、新日本無線(株)、佐鳥電機(株)
18	道路等高輝度特殊照明研究会	ライトイノベーション(株)、九州工業大学、北九州市立大学、(株)春日工作所
19	大出力LED照明研究会	(株)マクニカ

【展示会出展等】

No.	展示会等	開催日
1	室内自動調光システム報道関係向け公開実験	05月15日
2	SIIQ総会交流会(ハイアットリージェンシー福岡)	05月31日
3	産学連携フェア(学研都市)	10月17日~19日
4	ものづくりフェア2012(マリンメッセ福岡)	10月24日~26日
5	ハイウェイテクノフェア2012(東京ビッグサイト)	11月15日~16日
6	エコプロダクツ2012(東京ビッグサイト)	12月13日~15日
7	ライティング・フェア2013(東京ビッグサイト)	03月5日~8日
8	ジャパンインターナショナルポートショウ2013(パシフィコ横浜)	03月7日~10日

(7) カーエレクトロニクス拠点推進事業

○ 研究開発事業

① 研究開発

学研都市を中心とした大学における研究シーズを具体的な産学共同研究へとつなげる取組みを実施した。自動車関連企業からのニーズが強く、実効性の高い研究テーマについて「F A I S 産学連携研究開発事業助成金制度」を活用し、2件の共同研究を実施した。

≪産学連携研究開発推進事業助成金のうちカーエレクトロニクス分野にかかるもの（再掲）≫

【産学事業化促進助成金】

採択テーマ名	代表研究機関
省エネルギーS i Cデバイス高温実装技術研究	早稲田大学
高齢者用工コ自律走行・運転支援電気自動車の開発と農林業用作業車への応用	早稲田大学

② 研究会活動

自動車メーカー、地域企業、研究者等による6つの研究会活動を実施した。各研究会では、最適なソリューションを絞り込むために、課題解決のための議論や、特許調査・市場分析を行った。

No.	研究会名	参画機関
1	電力変換研究会	九州工業大学、九州大学、崇城大学、西日本工業大学、大分大学、鹿児島大学、山口大学、(株)安川電機
2	車載半導体研究会	九州工業大学、九州大学、熊本大学、(株)デンソー、新日本無線(株)、富士電機(株)
3	九州・ひびきの自律走行研究会	早稲田大学、九州大学、(株)デンソー、アイシン精機(株)
4	高温実装・材料技術検討会	早稲田大学、九州工業大学、トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、新日本製鐵(株)等
5	エネルギーハーベスティング研究会	九州工業大学、新日本無線(株)、(株)E C S、吉川工業(株)
6	パーティクルフィルタのリアルタイム状態推定と安全運転支援研究会	九州工業大学、早稲田大学、千葉大学、トヨタテクニカルディベロップメント(株)

③ ニーズ・シーズマッチング

学研都市を中心とする地域の大学研究者と、大手自動車産業技術者とのニーズ・シーズのマッチングを図り、産学連携や共同研究に向けたきっかけづくりに取り組んだ。

平成24年5月 (株)東海理化(於 学研都市)

参加企業技術者数：4名

大学研究者：5名

④ セミナーの開催

産学連携フェア（平成24年10月）において、下記のセミナーを開催した。

- ・カー・エレクトロニクスセンター5周年パネルディスカッション
「2030年における安全・安心な次世代モビリティ」
参加者数：150名

- ・カー・エレクトロニクスセンター5周年特別セミナー
「自動車技術の進展と今後」
参加者数：330名

○ カー・エレクトロニクスセンター運営事業

北九州市のカーエレクトロニクス事業の取り組みを広く発信するため、九州のみならず関東・関西での講演や、「組込みシステム開発技術展」への出展など積極的にPRを行った。

また、自動車関連企業や車載用電装品製造企業などを積極的に学研都市に招くとともに、各行政機関や海外調査団等約90件の視察団を受け入れた。

【展示会への出展】

展示会等	開催日
第15回組込みシステム開発技術展（東京ビッグサイト）	5月9日～5月11日
人とくるまのテクノロジー展2012（パシフィコ横浜）	5月23日～5月25日
第52回西日本総合機械展（西日本総合展示場）	6月13日～6月15日
産学連携フェア（学研都市）	10月17日～19日
九州国際テクノフェア（西日本総合展示場）	11月14日～11月16日

(8) ロボット開発支援推進事業

○ 「北九州ロボットフォーラム」(研究会)の運営

会員数179名・機関（平成24年度新規加入4名・機関）（発足時45名・機関）

・総会・セミナーの開催

平成24年 6月13日	平成24年度総会	(参加者数：25名)
平成24年 6月13日	定期総会記念講演	(参加者数：74名)
平成24年10月19日	産学連携フェアセミナー	(参加者数：65名)
平成24年11月22日	ひびきのサロン	(参加者数：99名)

・情報発信・交流の促進

【展示会の開催】

平成24年6月13日～15日 ロボット産業マッチングフェア北九州
出展社数：31社・機関、37小間

【展示会への出展】

展示会等	開催日
第49回日本リハビリテーション医学会学術集会（福岡国際会議場）	5月31日～6月2日
産学連携フェア（学研都市）	10月17日～19日
第13回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会カタログ展示（福岡国際会議場）	12月18日～20日

【その他】

ホームページ管理運営、リーフレット英語版・ニュースレター（18号～21号）作成

○市内発ロボット創生事業

技術シーズや市場ニーズから、ロボット試作プロジェクト（研究会）を企画し、北九州ロボットフォーラム会員を対象にプロジェクト参加メンバーを公募、試作品の開発委託を行った。

【助成プロジェクト】

項目	内容	参画機関
医療用使用済薬剤自動識別ロボット開発（研究会）	手術中に使用した様々な種類の使用済注射薬アンプル管を手術終了後に、正確に確認して薬剤名、容量、数量等を自動的にリスト化するために必要なアンプル管姿勢制御システムを開発し、バーコードの読み取り機能と合わせて、ロボットシステムを完成させた。	北九州工業高等専門学校、オオクマ電子(株)、おんが病院
空港内手荷物カートの低コストロボット化技術の開発（研究会）	取り付け型のモジュールにより空港（建物内外）荷物搬送台車の操縦をサポートするパワーアシスト型ユニットの開発を行った。既存の台車に取り付け可能にすること及び走行サポートに特化することで低コスト化を図ることができた。	九州工業大学、(有)ICS SAKABE、サンリツオートメイション株式会社

○研究開発プロジェクトで得られた新技術・新製品の实証化・事業化コーディネート

項目	内容	参画機関
静脈血栓症予防のための小型下肢運動補助ロボットの開発（研究会）	FAIS「平成24年度医療・保健・介護事業」において、駆動部の信頼性向上、鋳型加工による生産コストの検討を行い、試作機を完成させた。また、実用化へ向けて、市立八幡病院にてコメディカルを中心に効果の確認実験及び使用感についての調査を実施した。	RoboPlusひびきの(株)、九州工業大学、市立八幡病院

医療用上肢リハビリロボット開発プロジェクト（研究会）	筋電レスタイプについて、より実用的なロボットシステムにするため、産業医科大学の理学療法士と共同で、リハビリロボットを開発した。	産業医科大学、九州職業能力開発大学校
海洋活動技術開発プロジェクト勉強会（研究会）	北九州地域において蓄積されている海洋ロボット技術や環境配慮防災技術シーズを海洋活動に係るサバイバルトレーニングや海洋防災へ応用し、今後の研修プログラムの開発や海洋ロボットの開発へつなげた。	北九州市立大学、九州職業能力開発大学校、東海大学、日水マリン工業(株)
ハイブリット型飛行観測システム開発プロジェクト	強風下での安定した計測を行えるようにするため、尾翼部の改造と性能検証を行った。	北九州工業高等専門学校、ふるさとカンパニー(株)、北九州市立大学、九州職業能力開発大学校、九州工業大学
下肢患者・障害者のための住宅用歩行訓練ロボット開発プロジェクト	平成22年度市内発ロボット創生事業で製作した試作機に対して、タブレットPCを介して入出力可能な操作／表示プログラムを開発し、リハビリシステムとして高機能化することができた。また、実用化への取組としてリスクアセスメントを実施し、危険個所の改良を行った。さらに装置の機能を絞り込み在宅型の小型機の試作を行った。	九州産業大学、ロボフューチャー(株)、総合せき損センター、(株)有菌製作所
九州地域コミュニティロボット共創活動調査	千葉工業大学からFAISへの委託事業。九州地域におけるRT（ロボットテクノロジー）導入の可能性、特に高齢化社会におけるRT実装をテーマとし、大学研究者、県内企業などのメンバーで研究会を組織して、その中で調査研究を実施した。	九州大学、千葉工業大学、北九州市立大学、福岡工業大学、(株)安川電機、(株)ロジカルプロダクト

3 地域企業への経営・技術支援と創業の促進

(1) 中小企業経営支援事業

○ 中小企業・ベンチャー総合相談窓口事業

中小企業支援センターに中小企業診断士等の専門家を配置し、中小・ベンチャー企業の技術から経営に至るまでの幅広い相談に応じるとともに、平日の相談が困難な創業予定者等に対し、休日に相談を実施した。

年間相談件数1,166件（うち休日相談件数10件）

○ 専門家派遣事業

中小企業支援センターに登録している中小企業診断士、技術士、税理士、社会保険労務士等の専門家（登録人員239名、平成25年3月31日現在）を必要に応じて中小企業に派遣し、個別の経営課題の解決にあたった。

派遣件数・回数：専門家派遣39件、延べ155回（うち、中小企業支援ネットワーク強化事業：専門家派遣8件、20回）

○ 経営支援情報提供事業

市内中小企業等が経営上必要とする各種情報を機関紙やホームページ、メールマガジン等を通して幅広く提供するとともに、各種セミナーを開催した。

セミナー名	開催日	参加者数
実践起業塾2012	6月23日、24日、30日、 7月1日	34名
Webを活用した海外販路開拓	7月10日	20名
ネットショップセミナー	7月13日	53名
起業ワンポイントセミナー（第1回）	8月25日	22名
中小企業会計啓発普及セミナー（第1回）	9月8日	25名
ネットショップ売上アップ塾	9月12日～11月14日 (計7日間)	13名
起業ワンポイントセミナー（第2回）	10月27日	30名
後継者育成セミナー	10月30日、 11月2日、6日、8日	42名
起業ワンポイントセミナー（第3回）	11月17日	21名
小売店・飲食店のための資金繰りセミナー	11月26日	20名
法務・労務・税務・知財合同セミナー	11月30日	16名
経営支援講演会	12月5日	45名

中小企業会計啓発普及セミナー（第2回）	1月29日	23名
専門家派遣成果事例発表会	2月12日	18名
起業ワンポイントセミナー（第4回）	2月20日	25名
小売店・飲食店のための facebook 活用セミナー	2月26日	59名

○ 販路開拓支援プロジェクト

公募により選定した市内企業4社の優れた製品や技術について、市内外の企業等へ売り込みや、関東関西での商談機会の提供、展示会でのPRなど、販売促進を中心とした支援を行った。

企業名	対象商品
(株)有菌製作所	強化ダンボール椅子BOLBOL（ボルボル）
(株)プラスワンテクノ	パイプ組立装置
リーフ(株)	足圧測定システム
(株)リョーフ	外観検査装置

上記支援対象企業4社の売上推移

(単位：千円)

項目	平成23年度 (A)	平成24年度 (B)	(B-A)	増減率
全社売上	2,704,455	2,835,201	130,746	4.8%
支援商品売上	18,000	48,046	30,046	166.9%

○ 自動車産業振興事業

年間約150万台の生産能力を有する国内の一大生産拠点となった北部九州地域の自動車産業の動向に対応するため、自動車産業の生産技術の向上や受注拡大に経験と専門的能力を持った人材を活用し、市内中小企業の技術力向上や人材の確保・育成を図り、地場企業の自動車産業への新規参入や事業拡大を支援した。

事業名	助成対象企業名
技術力向上事業	松本工業(株)
中核人材育成・確保事業	(株)戸畑ターレット工作所
取引拡大事業	(株)C&G システムズ
	(株)富士精工
	(株)サンプロシステム
	大阪精工(株)

○ 巡回指導・マッチングコーディネーター事業

企業ニーズの積極的な掘り起こしや営業先・外注先のマッチング、各種支援情報の提供などを行う巡回専門相談員を配置したほか、マネージャーによる新事業展開や販路開拓を支援した。

項目	件数
巡回指導件数	329件/年
マッチング件数	121件（企業同士を仲介、面談）
上記のうち成約件数	13件（金額ベース1,972万円）

○ **国際ビジネスに関する市内意識調査業務**

地域企業の国際ビジネス支援強化を図るため、北九州市内企業30社（製造業が中心）に対して、海外取引等に関する訪問調査を実施した。北九州貿易・投資ワンストップサービスセンター（KTIセンター）の利用状況、海外取引の現況と今後の意向、海外取引を進めるにあたっての課題等についてヒアリングを行い、海外取引に興味を示した企業に対して、各種相談・情報提供を実施した。

(2) **北九州知的所有権センター運営事業**

工業所有権の閲覧、出願等に関する相談・指導、未利用特許の流通等を行う知的所有権センター（テクノセンタービル内に設置）を運営し、地元企業の新技術・新製品開発や新たな特許の取得促進を支援した。

- ・特許相談と支援・・・415件（内新規企業91件）
- ・専門家（弁理士）による無料相談と派遣による支援・・・173件
- ・インターネット出願件数・・・37件
- ・特許の流通促進のための活動・・・・・・・・訪問企業数延べ114社、成約件数5件
- ・知財セミナー開催

テーマ	開催日	参加者数
【特許流通セミナー企画開催】 『新しいエッセンス（知財）を有効活用する企業力向上講座』	11月22日	22名
【知的財産権セミナー】 『特許情報検索セミナー 特許電子図書館（IPDL）の活用方法』	9月27日	20名
【知的財産権セミナー】 『海外ビジネスにおける『知的財産の活用方法とリスク』について』 *第12回産学連携フェア内で開催	10月18日	34名

*企業の特許シーズ・ニーズ調査・・・調査員による企業の（特許）調査 件数35件

(3) **ベンチャー育成補助事業**

○ **インキュベーション・マネジャー配置事業**

インキュベーション・マネジャーを配置し、市内インキュベーション施設の入居企業に対

する創業から事業化までの支援を行うとともに、学研都市の大学発ベンチャー企業及び市内ベンチャー企業の創出・育成を推進した。

【市内のインキュベーション施設（平成25年3月末現在）】

施設名	設置者	対象業種	入居者数	目的
北九州テクノセンター	(株)北九州テクノセンター	サービスなど	4	ニュービジネスなどの起業支援
北九州テレワークセンター	北九州市	情報通信関連	9	情報系、情報関連サービス業などの支援
九州ヒューマンメディア創造センターインキュベーションルーム	(公財)九州ヒューマンメディア創造センター	コンテンツ	2	マルチメディア、コンテンツ系ベンチャー企業の支援
北九州学術研究都市産学連携施設	北九州市	研究開発、大学知財活用、大学発ベンチャー	4	大学の知財活用、研究開発型ベンチャー企業の支援
北九州市立起業家支援工場	北九州市	ものづくり、生産型	5	商品試作、生産のための工場を提供し製造業を支援

○ テクノセンターインキュベーション室助成

独自の創造的技術やビジネスモデルを構築して起業を志す者に北九州テクノセンタービル内のインキュベーション室（6室）を安価に提供（家賃の2分の1を助成）した。

（平成24年度実績：4社）

○ 北九州ベンチャーイノベーションクラブ運営事業

ベンチャー企業の支援ネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ(KVIC)」〔ベンチャー会員48社、一般会員77社、支援会員107団体、計232団体〕において、交流促進やビジネス推進に向けた各種事業を展開した。

① KVICフェア

KVIC会員の販路開拓及び新規顧客開拓支援のため、「KVICフェア」（展示商談会）を開催し、ビジネスパートナーの発掘及びマッチングを行った。

平成24年度は、「ひびしんビジネスフェア2013」と同時開催とし、「KVICフェア」においてベンチャー会員と支援会員企業、市内一般企業との商談を事前に準備することにより、231件の商談が行われた。

展示会等	開催日	参加者数
第7回KVICフェア（西日本総合展示場新館） 【ひびしんビジネスフェア2013と同時開催】	2月14日	4,260人

② KVIC展示会出展事業

KVIC会員の大規模展示会出展経費の一部を助成することにより、ベンチャー企業等の販路開拓を支援するとともに、KVIC活動をPRした。(支援企業：1社)

③ 広域ビジネスマッチング事業

国内10箇所のインキュベータが共同で推進する「ビジネス・インキュベータ・ジャパン(BIJ)」の「協創マッチングフォーラム」にベンチャー会員が参加し、関東地域の大手企業と商談を行った。(支援企業：1社)

4 質の高い財団運営

(1) 公益財団法人としての適正な業務執行

平成24年4月1日より公益財団法人へと移行し、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等の法令に基づき、公益財団法人としての業務執行を開始した。

事項	内容	開催日
第1回臨時理事会	臨時評議員会招集の決定	4月9日
第1回臨時評議員会	評議員会会長の選定 役員を選任	4月20日
第1回定時理事会	平成23年度事業報告及び収支決算 定時評議員会の招集 職務執行状況の報告	6月6日
定時評議員会	平成23年度事業報告及び収支決算	6月29日
第2回定時理事会	平成24年度収支補正予算 平成25年度事業計画及び収支予算 臨時評議員会の招集 職務執行状況の報告	3月26日

(2) 効率的な財団運営

○ 事務費の削減

賃借料（コピー機リース料、会議室の借り上げ等）の見直しや旅費交通費・消耗品費の削減などにより、事務費を対前年度比6.0%削減した。また、事務事業の見直しにより職員定数を1名（88名⇒87名）、人件費を38,426千円削減した。

○ 職員提案制度の創設

F A I S職員の積極的な意見を財団運営に反映させるため、「F A I S職員提案制度」を創設した。平成24年度は、60件の提案があり、職員提案審議会において審議した結果、32件の提案に取り組むこととした。

*取り組んでいく主な提案

- ・担当業務一覧表の作成
- ・学研都市ネットワーク無線LAN導入
- ・複合機利用の見える化と啓発による印刷経費の削減
- ・カー・エレクトロニクスセンター事務処理マニュアルとF A I S共通マニュアル様式の作成
- ・コーディネート業務におけるインセンティブ制の導入

(3) 学研都市の知名度の向上

○ 学研都市のPR事業

① 積極的な情報発信

市政記者クラブ向けに、プレスリリース（39件）を発信したほか学研都市見学ツアーを開催するなど積極的な情報発信を行った。また、北九州市立大学との共同記者会見を定例化して開催（3回）した。それらの取り組みの結果、テレビや新聞等で222件（前年度比37%増）報道された。

*報道件数内訳：テレビ68件、雑誌5件、新聞149件

② コミュニティFM放送による情報発信

学研都市に本社スタジオがある Air Station Hibiki(株)を活用し、毎週木曜日の午後3時から4時まで、学研都市と地域を結ぶラジオ番組「学研都市へ行こう！」を放送した。

学研都市内の大学（院）・研究機関・企業などの研究者や学生などが、研究開発情報の紹介、セミナーやイベントの告知、利便施設の紹介、キャンパスライフの紹介などの情報を発信し、学研都市とそれを支えるFAISの役割や成果をラジオを通じてPRした。

*放送回数：52回

③ 大規模展示会への出展

首都圏等で開催される大規模展示会に出展し、学研都市とその研究成果等の積極的なPRを行った。

*エコプロダクツ2012（12月13日～12月15日 於：東京ビッグサイト）

④ 「ひびきのNEWS」の発行

学研都市の活動を内外に紹介する「ひびきのNEWS」を年間約9,000部（3回／年）発行し、学研都市のPRを図った。

⑤ オープンキャンパスの同時開催

ひびきの祭時に（11月17日、18日）、オープンキャンパスを学研都市の3大学で同時開催した。

⑥ 学研サイエンスカフェ

学研都市の研究者と市民が自由な雰囲気の中で気軽に交流しながら最新の科学情報に触れられる「サイエンスカフェ」を2回開催した（延べ58名参加）。

回	テーマ	開催日	参加者数
第15回	ごみの中から貴金属（金・銀）が取れる?! ～銀メダルを作ろう～	8月9日	35名
第16回	車のエコドライブと自動運転	11月17日	23名

⑦ 視察・見学の受入れ

国内外の企業や学校、官公庁等からの視察への対応や、地域住民による見学の受け入れを行い、学研都市のPRに努めた。

*視察（見学）件数：159件、視察（見学）者数：1,420名

⑧ 学研都市コンベンション開催助成金交付事業

北九州学術研究都市内で開催されるコンベンション等の主催者に対し、開催に係る経費の一部を助成することにより、学研都市へのコンベンション誘致と知名度向上に努めた。

*助成件数：2件（北九大1件、早稲田大1件）

○ 学術研究都市地域交流事業(ひびきの祭)

学研都市のPRと地域との交流を図るため、11月17日（土）・18日（日）に「ひびきの祭」を「北九州市立大学ひびきの大学祭」と共催し、約11,000名の来場者があった。

観客参加型の実験やクイズを交えながら楽しく天気のおもしろさが学べる「気象予報士サニーエンジェルの『お天気実験教室』」をはじめ、小学生から大人まで来場者全員が挑戦できる「北九州の貴重な生きもの探索ラリー」「ふしぎ体験！LED工作教室～お母さんと子供のための省エネ大作戦～」などの催しを実施した。

(4) 学術研究施設等管理運営事業

○ 学術研究施設管理運営事業

① 北九州学術研究都市の指定管理者として、学研都市内の共同利用施設の一体的・効率的な管理運営を行うとともに、学研都市施設の利便性向上に向けた取り組みを行った。

【管理を行った施設】

- ・産学連携センター（1号館）・産学連携センター別館・共同研究開発センター（2号館）
- ・情報技術高度化センター（3号館）・事業化支援センター（4号館）
- ・技術開発交流センター（5号館）・環境エネルギーセンター
- ・学術情報センター ・会議場 ・体育館等体育施設

【研究室の入居状況（平成25年3月末現在）】

入居施設	室数	入居室数	入居企業等の数
産学連携センター（1号館）	31（31）	22（26）	11（15）
産学連携センター（別館）	9（9）	0（0）	0（0）
共同研究開発センター（2号館）	7（7）	4（6）	3（4）
情報技術高度化センター（3号館）	24（24）	13（15）	9（11）
事業化支援センター（4号館）	44（44）	35（34）	31（29）
技術開発交流センター（5号館）	47（47）	24（26）	15（14）
合計	162（162）	98（107）	69（70）

* () 内は平成24年3月末現在の室数、企業等の数

* 4号館の共同研究室と5号館の大型実験室をブース単位に細分化している。

② 情報システム機能改善

各種システムの老朽化による更新の際に、機能・利便性向上や運用コスト削減を勘案した改修を行った。

区 分	実 施 内 容
キャンパスネットワーク関係	<ul style="list-style-type: none"> ・5号館ネットワーク構成変更（設備のスリム化・コスト削減） ・SINET ネットサーバ統合更新（仮想サーバ採用、設備のスリム化・コスト削減） ・ネットワーク性能管理システム更新（仮想サーバ適用・設備のスリム化） ・Web メールサーバ更新（設備の適正規模化・コスト削減） ・Proxy サーバ増強（安定性向上） ・学術情報センターWeb サーバ更新（仮想サーバ適用・設備のスリム化）
利用申請システム関係	<ul style="list-style-type: none"> ・利用申請システム機能改修（機能改善・利便性向上） ・キャンパスカードシステム設備更新（機能向上・コスト削減）
教育設備関係	<ul style="list-style-type: none"> ・会議場後方カメラ更新（安定性向上） ・会議場吊物ワイヤー及び減速機オイル交換（安全性確保）
図書館関係	<ul style="list-style-type: none"> ・専門図書室内に認証型無線 LAN を新規に導入（利便性向上） ・専門図書室入館管理システム設備更新 ・専門図書室OPAC及び情報検索用端末更新（快適性向上・台数削減） ・一般図書室インターネット用端末更新（快適性向上）

③ 図書館の機能及びサービス改善・向上

区 分	実 施 内 容
一般図書室	・親子DVD上映会を夏と冬の2回開催。好評につき今後も継続開催予定
	・市民に児童書を中心にリサイクル本の提供を呼びかけ、ひびきの祭時に、充実したリサイクルフェアを開催。新たに「しかけ絵本展」を併設
専門図書室	・北九大の新1年生を対象に、大学所管の「入門ゼミ」の1コマを活用して、「図書館リテラシー」講習を実施
	・昨年度に10周年記念事業として実施した「選書ツアー」が好評だったため、今年度から本実施とした。
	・就職・資格試験コーナーを新規に設置
	・集密書庫のカビ対策として除湿機を設置し、全棚の大掃除を実施
情報設備関係	*上記、情報システム機能改善の「図書館関係」に記載

【図書館利用状況】＊（ ）内は平成23年度の実績

区 分	開館日数	入室者(人)	貸出利用者(人)	貸出冊数(冊)	蔵書数(冊)
一般図書室	(336)	(54, 313)	(21, 400)	(93, 965)	(50, 642)
	336	50, 779	23, 323	92, 619	52, 748
専門図書室	(336)	(91, 496)	(8, 246)	(16, 612)	(94, 521)
	336	111, 569	8, 969	17, 947	96, 642
合 計	—	(145, 809)	(29, 646)	(110, 577)	(145, 163)
		162, 348	32, 292	110, 566	149, 390

○ 北九州テレワークセンター管理運営事業

A I Mビル（小倉北区）内の情報通信設備を備えたインキュベーション施設である北九州テレワークセンターの管理運営を指定管理者として行った。

【管理を行った施設】

- ・オープンテレワークスペース
- ・スモールオフィス
- ・一般オフィス 等

○ 施設の入居状況

【スペースの入居状況（平成25年3月末現在）】

入 居 施 設	室 数	入居室数	入居企業等の数
スモールオフィス	18（18）	15（9）	15（9）
一般オフィス	19（19）	13（13）	11（11）
合 計	37（37）	28（22）	26（20）

＊（ ）内は平成24年3月末現在の室数、企業等の数

【収益事業等会計】

(1) 学研都市施設活用事業

収益事業（駐車場管理運営、自動販売機設置）を実施し、学研都市の入居者や来訪者の利便性の向上に寄与した。

【法人会計】

(1) 財団の管理運営等

財団を運営していくために必要な人件費及び事務費を支出した。